



作文2部

▽優秀賞▽

祖父母とお米の力

横手市立横手北小学校 五年 戸田廉斗

ぼくは、生まれてから小学校に入るまでの間に、五回以上入院をしています。カゼをこじらせて、肺炎になったりしたからです。小さいころのぼくは、熱を出すと、水分もご飯も食べられなくなってしまう、入院して点滴をするを、くり返していました。そんなぼくのことを家族のみんなは、とても心配したそうです。ぼくも、入院は、イヤでイヤで仕方なかったのです、主治医の先生と「ふだんから、水分もご飯もしっかり食べて、丈夫な体を作ろう。」と約束しました。でも、ぼくは、「食の細い子供」で、ふだんからあまりたくさん食べることができませんでした。

ぼくの家で料理を作るのは主におばあちゃんです。おばあちゃんはどうかやって、ぼくにご飯をたくさん食べさせようか、とてもなやんだそうです。ご飯をあまり食べず、おかずばかり食べてしまうぼくに、ご飯も一緒に食べてもらうために、おばあちゃんは、料理の本をたくさん読んでくれました。そんなおばあちゃんが、考えついた作戦は、「井物」でした。ご飯は、和洋中のどの料理にも合うので、ぼくの好きなおかずと合わせたら、たくさんご飯も食べてくれると思ったそうです。おばあちゃんは、天井、親子丼をはじめ

め、中か風でかマーボー丼。洋風では、ぼくの大好きなグラタンと組み合わせたドリア風ご飯などなど、たくさんのお「井メニュー」を作って食べさせてくれました。そのおかげで、ぼくは、どんどんご飯を食べられるようになりました。

ぼくの家のお米は、おじいちゃんが作ってくれています。おじいちゃんは、大工の仕事もしているのに、朝早くに起きてお米を作ってくれています。おじいちゃんも、ぼくにおいしいご飯を食べさせるために、がんばってくれています。

お米は、一粒一粒がとても小さくて、とてもそんな風には見えないけど、実はタンパク質や、ビタミンなど、体を丈夫にしてくれる栄養素をたくさん持っているそうです。おじいちゃんが作ってくれるお米の力と、おばあちゃんで作るおいしいご飯作戦のおかげで、ぼくは小学校に入ってからカゼをひいても、悪化させることのない丈夫な体になりました。だから入院することもなくなり、主治医の先生もびっくりしていました。主治医の先生に会えないのは、さびしい気もするけど、「それだけ丈夫な体になったんだよ。」と家族のみんなが言ってくれます。何よりイヤでイヤで仕方なかった入院をしなくても良くなって、ぼくが一番うれしいです。

ぼくは、家族のたくさん愛情と、お米の栄養のおかげで、ここまで大きくなることができました。祖父母と、お米に感謝して、これからも、たくさんご飯を食べて、丈夫な体でいようと思います。